

令和 8 年度 二十歳を祝う会 あいさつ (要旨)

若さと希望に溢れる二十歳を迎えられた若人の皆さん、心からお喜びとお祝いを申し上げます。おめでとうございます。また本日まで育てこられたご家族の皆様、恩師の先生方、地域の皆様にもこれまでのご労苦に対して敬意を表すると共に重ねてお喜びを申し上げます。

さて、近ごろ「人口減少社会」という言葉をよく耳にするようになりました。文字通り人の数が今よりも減った社会を指す言葉です。歴史をひも解いてみても、江戸時代に餓死者が出るような飢饉があった時でも、300 万人もの犠牲者が出た第二次大戦下であっても、一時的に出生数が減ることはあっても、長い間人口が減り続けるという事はありませんでした。日本では今、平成 22 年頃をピークに人口が減り続けていて、今後も暫くは減っていく事が予測されています。日本の近代史上、未曾有の時代と言っても過言ではありませんが、人が減り続けると社会はどうなるのでしょうか。

それは皆さん自身も体験したコロナ禍を思い出して貰えばよいのではないかと思います。新型コロナウイルスは世界の死者数が 700 万人とも倍の 1500 万人とも言われ、世界の平均寿命が 2 年も短くなったと言われるほどのパンデミック、感染症の大流行となりました。その時に私達の生活は人との接触が制限され、経済活動は停止し、様々な社会機能がピンチとなりました。この危機を乗り切るために、私達の暮らし方、働き方などを変えて対応してきました。

このように社会環境の変化は、人の営みにも大きな影響をもたらす事ははっきりとしました。ということであれば、人が減り続ける事は私達の暮らしや社会が変わっていくという事です。人が減るという事について、皆さん方はピンと来ない人もいると思うので、少し説明させてもらいますと、よく考えてみて下さい。お母さんお父さん、この 2 人がいてはじめて子どもが生まれます。この 2 人から 2 人の子どもが産まれれば、やがてお母さんお父さんが亡くなって行っても全体の数は変わりません。しかし、生まれてくる子どもの数が 2 人未満で、それが長く続けば全体の数は減っていきます。今の日本ではお母さん一人あたり、女性から一生の間に産まれる子どもの数は、1.1 人です。1.1 人が急に 2 人以上にはなりませんので、暫くの間は人口が減り続けることが確かだと言えるわけです。

既に人手不足と言った声が聞かれます。当たり前のことですが、人がいなくなれば人がやっていた事ができなくなるということです。あなたがいなくなれば、あなたがやっていた仕事が出来なくなってしまうという事です。また人がいることで成り立っていた社会の仕組みや制度、経済活動が立ち行かなくなっていくます。これらを解決するためには、コロナ禍の時のように私達の暮らし方や働き方、考え方を変えていく事になります。これに A I やデジタルが加われば、これからの社会が目まぐるしく急激に変わっていくことは想像に難くありません。

このように時代が刻々と変わるとなれば、先が見通しづらくなり、不安や心配になります

が、大丈夫です。これまでも幾多の困難を乗り越えて今の日本という国、社会はあります。ある日突然黒船がやって来て開国となった明治維新の時も、日本中が焼け野原になってしまった世界大戦後も、みんなで力を合わせて新しい社会を作り上げてきました。勿論、そこにはたゆまない努力や不断の思いは欠かせませんが、皆さんには何よりも新しい時代に対応できるだけの若さ、エネルギー、可能性があります。まずは自分が見定めた方向に進んで行って下さい。そして一人前の社会人として、みんなで力をあわせてこれからの未来・社会を創りあげてくれることを願っています。

そのためには、まずはそれぞれが社会を担うだけの力量を養わなくてはなりません。今やるべき事・今しか出来ない事を積み上げ、社会人としての土台となる力を蓄え、その力を大きく成長させて新たな時代を切り開く開拓者として、時代を担う一人前の社会人として、ここにいる皆さん全員が活躍してくれる事を心から楽しみにしています。

地元の町長として、ひとつだけお願いをしておきます。それは皆さんの若い力を故郷に貸して欲しいということです。方法はそれぞれで構いません。故郷に住むこと、故郷で働くこと、故郷に戻ってくること、或いは故郷に関わること、故郷を思うことでも構いません。今「ふるさと南木曾」は若い力を本当に必要としています。これからも故郷と繋がっていて下さい。故郷に繋がっている限り故郷はいつでも皆さんを応援していますので、皆さんもそんな故郷に何かしらの方法で力を寄せて頂ければとお願いをするものです。

そんなことを心の片隅に置きながらも、今やるべきことを一つ一つ積み重ねながら、成人としての回りからの期待に応えるべく1日1日をひた向きに過ごし、社会人として土台となる力を養っていく事、そのことで必ずや皆さんの人生が花開き実り多きものとならんことを心からお祈り申し上げ、成人にあたっての餞の言葉と致します。

人生はこれからが本番です。がんばっていきましょう。

(令和8年8月14日 南木曾会館ホール)